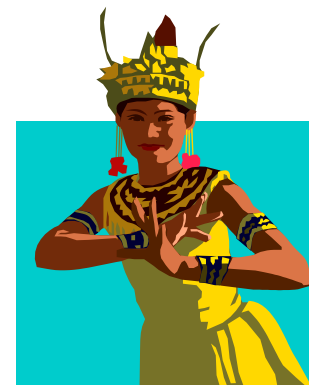


インドネシアを誤解し 敬遠している日本人のために

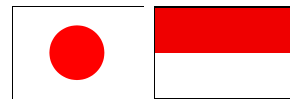


インドネシア進出サポート
小野耕司





自己紹介



- 1975/4～1981/6 ヤマハ(株)入社 インドネシア工場立上支援分野配属
- 1981/6～1987/3 インドネシア工場生産課長 電子鍵盤楽器の組立生産
- 1987/3～1995/7 インドネシア工場長 電子楽器、ピアノ、ギターの輸出拠点化
- 1995/7～2005/3 帰国、インドネシアを普及品の生産拠点化するプロジェクト
- 2005/3～現在 ヤマハ退職、インドネシア進出サポートコンサルタントとして独立
インドネシア語翻訳・通訳

静岡大学客員教授、専修大学客員講師

独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)専門家


独立行政法人 中小企業基盤整備機構アドバイザー

一般社団法人海外事業支援センター(OBAC)アドバイザー

一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)講師

一般社団法人日本インドネシアビジネス協会(ABJI)理事

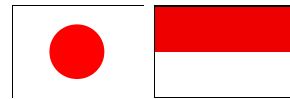
などを経歴し、これまでのインドネシア進出支援企業数は約100社



インドネシアとの
関わりも49
年になりました
た



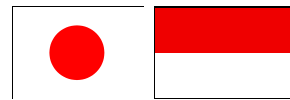
セミナー要旨



- 日本企業の海外進出に関する、様々なイベントに参加して感じることとして、アセアン諸国の中でも、特にインドネシアに対して、多くの日本人は特別な感情を抱いていることです。
- 確かに、日本人にとっては、馴染みのないイスラム教徒の国、インドネシア語と言う聞いたことのない言語、アセアンでは唯一南半球に位置する国、一年中暑くて四季の無い熱帯地域、等々が主な印象でしょう。
- そのことで、最初の時点で無意識のうちに、進出先候補から外していることは無いでしょうか。
- このセミナーでは、間違った先入観を取り去り、インドネシアと言う国に対する誤解を解いてもらうための、通常のメディアではなかなか知り得ない体験談も取り入れ、5項目からなる20の誤解と、それに対する私の見解を提示し、真実のインドネシアを紹介したいと思います。



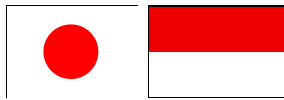
目次



1. イスラム教に対する誤解
2. 人種構造に対する誤解
3. 熱帯性気候に対する誤解
4. 治安問題に対する誤解
5. 政治体制に対する誤解
6. 社会インフラに対する誤解
7. 生活環境に対する誤解
8. カントリーリスクに対する誤解
9. 人材に対する誤解
10. 日本との歴史的関係に対する誤解
11. インドネシア語に対する誤解
12. 経済力に対する誤解
13. 産業構造に対する誤解
14. 国内消費市場に対する誤解
15. 電力供給に対する誤解
16. 部材現地調達に対する誤解
17. 産業インフラに対する誤解
18. 環境規制に対する誤解
19. 税金制度に対する誤解
20. 外資規制に対する誤解



1. イスラム教に対する誤解



良くある誤解

1. イスラム教は排他的な一神教であり、異教徒を殺すことを聖戦と称する、**暴力的な宗教**である。
2. 一日五回の礼拝、毎年約1ヵ月間の断食、そして一生に最低一度の1ヵ月前後のメッカ巡礼など、戒律に従うことで、**仕事に影響**を与える。
3. 目には目を歯には歯を、と言う厳しい**ハムラビ法典**の教えがあるので、付き合うのが怖い。
4. イスラム教徒はイスラム教徒しか結婚が認められないので、日本人はインドネシア人と**結婚出来ない**。
5. 豚肉とアルコールを使っていなければ、**ハラル**なので飲食を勧めても構わない。

私の見解

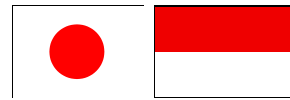
1. 同じ唯一神を崇める他の一神教である、ユダヤ教およびキリスト教との軋轢、そしてイスラム教の中でもスンニ派とシーア派の対立はあるが、インドネシア国民の90%はイスラム教徒で、そのほとんどがスンニ派であるため、**国内での宗教的な争いはほとんど無い**。
2. イスラム教の戒律は生活に深く根付いており、それが彼らの生活や人生の規範となっているため、見方を変えると**良い面が多い**。
3. ハムラビ法典は**ユダヤ教の教え**である。
4. イスラム教徒が改宗することは許されないので、日本人がイスラム教に改宗するしか方法は無いが、多くの場合は**形式的な手続き**で済んでいる。
5. 豚肉以外の動物であっても、戒律に則った方法で屠殺されていること、アルコール分を少しでも含む調味料は不可など、**細かい規則がたくさんある**ので、本人がどれくらい厳しく対応しているのかを、事前に確認しておくことが大事である。

参考資料 [日本人としてイスラム教徒に配慮すること](#)





2. 人種構造に対する誤解



良くある誤解

1. インドネシア人の95%以上は、プリブミ(土着民)と呼ばれる、**イスラム教のマレー人**である。
2. **華人系インドネシア人**は、経済分野では大きな力を持っているが、政治や軍事においては参画が認められていない。
3. 華人系インドネシア人は存在するが、**インド系インドネシア人**は存在しない。
4. 300年以上にわたり植民地として支配した**オランダ**は、独立後はほとんど社会的影響力や、地位を持っていない。
5. 独立以前に存在していた**王国の関係者**は全て普通の国民として暮らしている。

私の見解

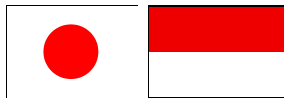
1. プリブミで括られる中には、ジャワ人、バリ人、ミナンカバウ人等、異なる言語持つ、**200以上の異なる種族**が存在し、宗教もイスラム教に限らず、10%弱がキリスト教徒である。
2. 1965年9月30日の、インドネシア共産党クーデター事件以降30年間は、華人系インドネシア人に対する締め付けが厳しかったが、2000年以降は徐々に緩やかになり、元ジャカルタ州副知事などのように、**政治分野に進出する華人**も出て来ている。
3. オランダ東インド会社が、植民地政府の行政官として、インドから連れて来た**インド人の末裔**が、広く社会に根付いている。
4. インドネシアに住み着いたオランダ人や、インドネシア人との混血の末裔は多く存在しており、その特徴を活かして、特に**芸能界で活躍**している。
5. ヨグヤカルタ特別区の知事は、**地元の王族の世襲**とされている。地方の元王族は、広大な土地を担保に、事業家として成功している事例もある

参考資料 [インドネシア赴任者事前研修](#)





3. 熱帯性気候に対する誤解



良くある誤解

1. 年間を通じて**真夏の暑さ**で、乾期と雨期が半年毎に訪れる。
2. 熱帯雨林の地域であるから、蒸し風呂のような**高湿度**の中で生活している。
3. 高温多湿の世界であるから、**長袖シャツや上着**を必要とすることはほとんどない。
4. 日本の夏のように、年間を通じて**日照時間が長い**。
5. 熱帯なので、**避暑が出来る**涼しい場所や、寒い場所はない。

私の見解

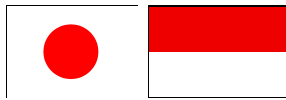
1. 年間の平均気温は28度で、**日本の真夏の暑さよりは過ごし易い**。乾期と雨期の温度差は左程無く、最近では乾期と雨期の違いを感じられないことが多い。
2. 乾期の間や雨上がりの後は湿度が低く、**日陰に入ると快適**に過ごせる。
3. 屋内や車内は**エアコンが効き過ぎて寒い**ことが多く、長袖シャツや上着を用意していると安心である。
4. 赤道近くのため、**昼と夜の長さは年間を通じて30分程度しか変わらず**、朝6時前後の日の出と、夕方6時前後の日の入りが繰り返される。
5. 標高3000メートル前後の山が多く、その中腹や山頂には**避暑地が展開**している。

参考資料 [インドネシア赴任者事前研修](#)





4. 治安問題に対する誤解



良くある誤解

1. 日本人は金持ちと見做され、**窃盗**や**強盗**の対象になり易い。
2. 交通事故で加害者となった場合は、住民による**集団リンチ**を受ける危険がある。
3. 警察は**お金次第**で動く可能性が高いので、信用出来ない。
4. スマホで呼べる**白タク**は、普通のタクシーよりも安くて便利である。
5. 高層アパートやコンプレックス住宅地は、**警備員**が常時配置されているので、安心である。

私の見解

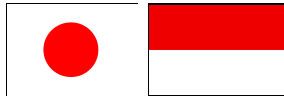
1. 日本と同じ感覚でいると危ない。**隙を見せない**ことは、自分を守るための鉄則である。
2. 今でもインドネシア人の加害者や窃盗犯に、**集団リンチ**を加える事件は頻発しているが、逃亡を企てるなどの『**犯罪者**』**に対するもの**で、加害者であっても、誠意をもって対処する日本人に対して、暴行を加えることは考え難い。
3. 警察の保護を求めた際に、お金を要求されるのは間違いないが、**安全をお金で買える**と考えれば腹も立たない。
4. 白タクは料金は安いですが、万が一事故に遭ったり、犯罪事件に巻き込まれた際には、**運転手は個人事業者**のため、責任を求めることが難しい。
5. **警備員による犯行事例**もあることを忘れてはいけない。自分の身は自分で守ることが鉄則である。

参考資料 [インドネシア赴任者事前研修](#)





5. 政治体制に対する誤解



良くある誤解

1. インドネシアは軍事力を背景にした、**独裁的な政権**が国を支配している。
2. 東南アジアの他の国々に見られるように、貧富の差を温床とする、**共産主義が浸透し易い**社会風土がある。
3. 独立の際に宣言した、**非同盟主義**が外交基盤にあり、他国との関係構築に対しては、比較的消極的である。
4. 政治の腐敗抑制度は世界的に低く、上から下まで**汚職が蔓延**している。
5. オランダ植民地時代から受け継いでいる法律もあり、**法治国家の基盤が複雑**で、普通の人にはなかなか理解出来ない。

私の見解

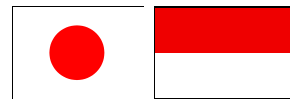
1. 1998年に崩壊したスハルト政権以降は、**国民の直接投票による大統領選挙**制度が導入されるなど、民主主義の導入が進んでいる。
2. 1965年9月30日の、**インドネシア共産党クーデター事件**による多くの悲惨な傷跡は、国民に共産主義排除の考え方を深く植え付けた。
3. スカルノ政権崩壊以降は、**ASEAN, OPEC, G20, APEC, IPEF, RCEP**などに加盟し、国際政治における存在感や影響力を高めつつある。
4. 世銀による政治の腐敗抑制度は、2022年には213カ国中で133番目と芳しくないが、2000年以降は独立機関として、**汚職撲滅委員会KPK**を設置するなどの工夫はしている。
5. 2020年末に、投資と雇用問題に関係する全ての法律を一括で整理する、**オムニバス法**を発効するなど、法制度の整備は進めている。

参考資料 [これだけは知っておきたいインドネシアの政治体制
インドネシア政府機関との上手な付き合い方](#)





6. 社会インフラに対する誤解



良くある誤解

1. インドネシアは15,000以上の島からなる国家のため、**他島間の移動**には多大な時間を要し、不便である。
2. ジャワ島内の**主要都市間**も、短時間で移動するためには、航空便に頼るしかない。
3. **水道**は直接飲める品質ではないばかりか、臭いや色もあり、洗濯やシャワーに使用するのも心配である。
4. **計画停電**や**事故停電**が多く、冷蔵庫の食品管理が心配である。
5. **固定電話**の新規回線を確保するのに、非常に長く待たされる。

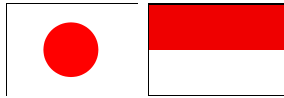
私の見解

1. 各島の主要都市には近代的な空港が開設され、**国内線の航空便**も数多く運行されている。
2. ジャワ島縦断の高速道路が貫通し、近い将来には、**スマトラ島からバリ島**までの、高速鉄道も併せて開設される。
3. 飲料水は**ボトル飲料水**が数多く販売されており、戸建の家庭用小型浄水器も入手可能で、アパートには大型浄水器が設置されている。
4. エネルギー源としての**化石燃料**は国内で十分に確保可能で、電力需給に問題は無い。
5. 全国民が**携帯電話**を1台以上保有しており、固定電話を必要とすることは殆ど無い。





7. 生活環境に対する誤解



良くある誤解

1. インドネシア産の米は**インディカ米**なので、ジャポニカ米を使う日本食には合わない。
2. **日本食の材料**は、日本食専門のスーパーに行かないと手に入らない。
3. インドネシアでは**お手伝いさん**を雇うのが社会の慣習なので、日本人宅でも雇う必要がある。
4. 常夏の国だから、仕事の時以外は**半袖、短パン、ゴム草履**で問題ない。
5. 日本で取得した国際免許証で、インドネシア国内での**車の運転**は可能である。

私の見解

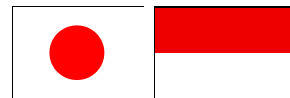
1. インドネシア国内でもジャポニカ米に近い種類の、**ジャパニカ米**を作っており、値段は少し高いが、日本食にも使える。
2. AEONほどではないが、地方都市においても、Carrefourや他のスーパーで、**日本食に近い食材**は手に入る。
3. **高層アパート**では、使用人の部屋はあるが、特に雇わなくても不自由は無い。普通の戸建住宅でも、コンプレックス形式で警備が常設されている場合は、無くても大丈夫。
4. 自宅の中では半袖、短パン、ゴム草履でも問題は無いが、公共の場に外出する際には、男性であっても、宗教上、**手足はあまり露出しない服装**が望ましい。
5. 法律的に国際免許証が使えるとしても、**安全上の観点**から、インドネシアの交通事情を理解して、かつインドネシア語が十分に使えるまでは、自分で運転することは差し控えた方が良い。

参考資料 [インドネシア赴任者事前研修](#)





8. カントリーリスクに対する誤解



良くある誤解

1. インドネシアで事業を展開する際のカントリーリスクは、**火山爆発、洪水、交通渋滞**である。
2. カントリーリスクは、その国の特有のものであるから、**回避したり軽減したりするのは難しい**。
3. カントリーリスクに遭遇した場合は、**損害保険**で損失を補填する。
4. 学生や労働者による**デモが頻発**しているインドネシアは、カントリーリスクが高い国である。
5. 独立してから僅か79年のインドネシアは、**国の基盤が未熟**であるため、カントリーリスクが高い。

私の見解

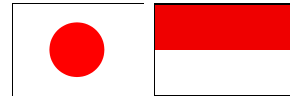
1. インドネシアで事業を展開する際のカントリーリスクは、**税制、労働組合、朝令暮改の法律**である。
2. 税制、労働組合、朝令暮改の法律のリスクに対しては、情報管理により**回避や軽減が可能**である。
3. 税制、労働組合、朝令暮改の法律のリスクによる損失を補填するのは難しく、**会計士、税理士、弁護士**による支援が重要となる。
4. 自社内の特定の問題によるデモ以外は、**回避出来るリスク**である。
5. オランダからの独立は1945年であるが、それ以前の**ヒンズー教王国**の基盤は1世紀から、**イスラム教王国**の基盤は15世紀から続いている。

参考資料 [インドネシア事業のリスク管理](#)





9. 人材に対する誤解



良くある誤解

1. インドネシアには**低賃金で使える労働者**が、豊富に存在するので、労働集約型の産業には有利である。
2. 多くの労働者は**ジャワ島に集中**して住んでいるので、その他の島で労働者を確保するのは難しい。
3. インドネシアは日本に比べて**教育レベルが低く**、優秀な技術者や経営管理者を確保するのが難しい。
4. インドネシア人の**就職先の希望ランキング**は、日本企業がトップである。
5. 既にのべ30万人を超えるインドネシア人が、**技能実習生**として日本での仕事の経験を積んでおり、彼らを採用して活用する機会はある。



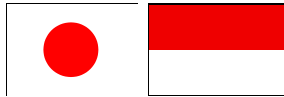
私の見解

1. 現在の経済成長が維持されると、2050年には法定最低賃金と約15万円となり、**現在の日本と同等**になるため、インドネシア＝低賃金はもはや通用しなくなる。
2. 総人口の約60%はジャワ島に集中しているが、現在でも、2億7千万人の約40%に相当する**1億人がその他の島**に住んでおり、労働力が不在ということは考えられない。
3. 日本企業がインドネシアに進出し始めた、独立して僅か25年後の1970年初頭から、**既に半世紀が経過**しており、高卒割合は60%を、大卒割合も20%を超えていることから、全体の学力は確実に向上している。
4. インドネシア人に聴いたところによると、第一位が国家公務員または国軍士官、第二位が国内の大財閥、第三位が欧米企業、**第四位が日本企業**で、理由は実質的な所得であった。
5. 実質的に技能を習得して来た人材の多くは日系の大企業に引き抜かれ、**多くは単純労働の経験のみ**で、技能は期待出来ない。

参考資料 [インドネシア事業をインドネシア人に任せるために](#)



10. 日本との歴史的関係に対する誤解



良くある誤解

1. 日本が現在のインドネシアと、交易などで関係を持ったのは、**明治以降**のことである。
2. 大東亜戦争において、日本はインドネシアを**植民地**として、支配し搾取した。
3. 日本がインドネシアの建国と経済開発に貢献したのは、**スハルト政権以降**である。
4. 日本は今でも**最大の投資国**である。
5. インドネシアの**最大の貿易相手国**は日本である。



私の見解

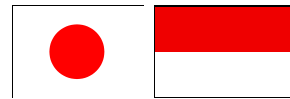
1. オランダは**17世紀以降**、植民地にした現在のインドネシアを拠点として、フィリピン、台湾、中国、そして日本へと足を伸ばしていたが、その海洋航路に便乗して、インドネシアなどに渡航した日本人は存在したと思われる。
2. 1942年から1945年にかけて日本軍は、**石油資源を確保**するために、現在のインドネシアを統治したが、欧州諸国が行ったような搾取目的ではなかった。
3. 日本は大東戦争に対する2億ドル以上の戦争賠償金を、独立後の**スカルノ政権**に支払い、そのお金は近代的なデパート(Sarinah Jaya)やホテル(Hotel Indonesia)などの建設資金として活用された。
4. 2019年以降、日本は最大投資国の地位を**中国に明け渡し**、その差は年々広がりつつある。
5. 日本は1990年以降のデフレ経済で、インドネシアとの貿易額も低迷し、現在では**トップ10以下**の立ち位置である。

参考資料 [インドネシアと日本と世界の歴史](#)





11. インドネシア語に対する誤解



良くある誤解

1. タイ語やベトナム語、そしてヒンディー語のように、日本人には全く馴染みの無い、**難しい言語**である。
2. 種族により、**ジャワ語**、**バリ語**などを使い分けるため、インドネシア語を習得しても、役に立つのか分からない。
3. インドネシア語は使えなくても、**英語で十分に**コミュニケーションが可能である。
4. 外国人のインドネシア語能力を評価する**検定試験**は無い。
5. インドネシア語をマスターするには、日本国内にある大学の**インドネシア語学科**で勉強しなくてはならない。

私の見解

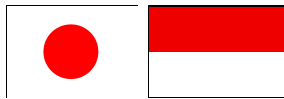
1. インドネシア語はマレー語を基に作られた、**比較的新しい言語**で、文法は簡素で、文字もアルファベットの他、発音はほぼローマ字ベースのため、外国人にとってはとても習得し易い言語である。
2. 独立時に正式に**インドネシアの公用語**として定めたため、全てのインドネシア人は、インドネシア語でコミュニケーションが出来る。
3. インドネシア人き気楽に英語を使いたがるが、一部の人達を除き、**理解力が高いとは言い難い**。
4. 民間ベースではあるが、**インドネシア語検定制度**は存在する。
5. インドネシア国内の主要大学には、**外国人向けインドネシア語講座** (BIPA: Bahasa Indonesia bagi Penutur Asing) が開設されており、半年単位で資格を取得出来る。

参考資料 [インドネシア語上達の秘訣](#)





12. 経済力に対する誤解



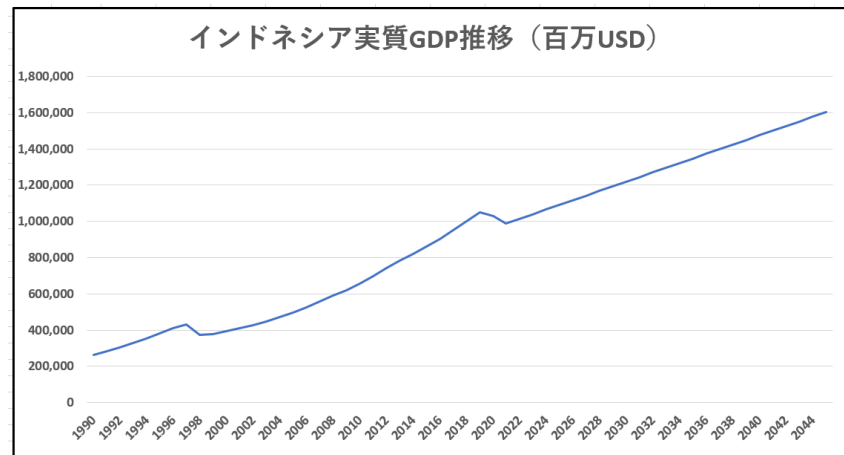
良くある誤解

1. インドネシアは資源大国であるが、経済力ではまだ**発展途上国**である。
2. ASEAN諸国の中では、**シンガポール、マレーシア、タイに次ぐ**経済力を持っている。
3. 貧富の差が大きく、一部の富裕層を除き、**中高級品に対する購買力**はさほど期待出来ない。
4. 経済の基盤は豊富な**天然資源の輸出**である。
5. 一日USD2以下で生活している貧困層の**スラム街**は、未だにあちらこちらに存在する。

私の見解

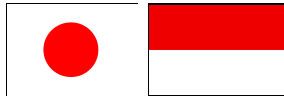
1. 2022年の名目GDPは世界第16位であったが、2045年には**世界第4位**を目指している。
2. 一人当たりGDPではシンガポール、マレーシア、タイの後塵を拝しているが、国全体では**各国の3倍以上**を達成している。
3. ジャカルタ周辺の**中間層の購買力**は急拡大を遂げており、年間購買力USD6,000を超える層は、この地区の人口の半数に達している。
4. 日本と同様に、**GDPの60%は国内消費**が貢献している。
5. 貧困層は国民の9.36%であるが、2005年の13.36%からは**着実に減少**している。

参考資料 [2050年のインドネシアはどんな国？](#)





13.産業構造に対する誤解



良くある誤解

1. インドネシアには天然資源が豊富に存在するので、それらから作られる**各種材料は安く手に入る**。
2. 人件費が比較的安く、労働力も豊富なので、**労働集約型**の産業に適した国である。
3. 国内に**産業機械**の製作会社がほとんど無いため、日本、中国、台湾、韓国などからの輸入に依存している。
4. 日本のような、産業の裾野を支える**中小企業が脆弱**なため、外注として使える現地企業は限られる。
5. インドネシアの産業のほとんどは、外国資本、あるいは**華人系インドネシア資本**に支配されている。

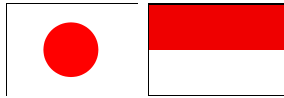
私の見解

1. 天然資源を工業材料などに変換する、上流産業の育成が疎かにされて来たため、工業先進国に輸出して、そこで加工されたものを輸入しているため、**選択肢が狭められ、価格も高い**。
2. 賃金は上昇の一途を辿っているため、コスト面での比較に基づき、**徐々に自動化に移行する必要がある**。
3. 金型はインドネシア**国内での調達率を60%以上**にすべく努力しており、自動化設備も徐々に国内製作が進んでいる。
4. 日本に比べて、まだまだ数も少なく、技術レベルも遅れているが、過去半世紀近くにわたり、**日本企業が育てて来た地場産業**は確実に力を付けて来ている。
5. 大規模企業のほとんどは外国資本あるいは華人資本であるが、**プリブミが経営する中小零細企業**も増えつつある。





14.国内消費市場に対する誤解

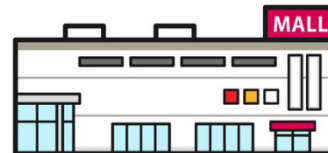


良くある誤解

1. 一部の富裕層向けの高級品市場と、ほとんどの庶民向けの低級品市場に二分している。
2. 急成長を遂げているオンラインショップ市場は、信用度の高い中間層や富裕層向けであり、庶民は利用しづらい。
3. 大都会には大きなショッピングモールが数多く存在するが、地方では伝統的な市場が主体である。
4. 銀行金利が高いため、中間層以下が高額品を手に入れるのに、ローンを組むことは躊躇される。
5. 輸入品には輸入税の他に、奢侈品税も賦課されるため、価格の面で国内製品と競争するのが難しい。

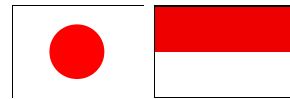
私の見解

1. ジャカルタ周辺の中間層の購買力は急拡大を遂げており、年間購買力USD6,000を超える層は、この地区の人口の半数に達している。
2. 決済手段として、デビットカードなど前払システムをベースにしたサービスが広がり、庶民の間でもオンラインショップは利用されている。
3. 小さな地方都市にもショッピングセンターが展開しつつあり、伝統市場は次第に廃れつつある。
4. 日本で昔流行した、無尽講に似たアリサンと言う仕組みを利用し、仲間同士で資金を都合し合う習慣がある。
5. 高い奢侈品税が賦課される商品を購入する層は、元々が富裕層なので本当に必要な物は需要が無くならない。





15.電力供給に対する誤解

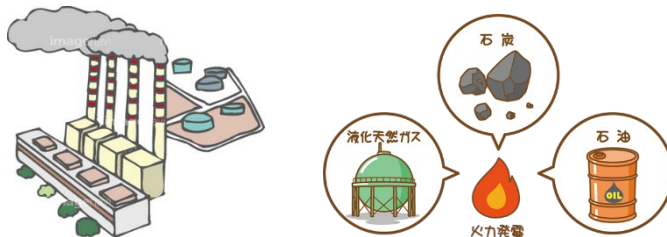


良くある誤解

1. 火力発電所の燃料となる化石燃料としては、国内に豊富に存在するが、**発電所の能力**が需要に追い付かず、停電を起こしている。
2. 火力発電の燃料となる**石油**は、以前は輸出品目のトップであったが、最近では国内用としても不足し始めている。
3. インドネシアには多くの活火山が存在していることから、今後は**地熱発電**による電力供給が期待出来る。
4. インドネシアは年間を通じて日照時間が長いので、**太陽光発電**による電力供給が期待出来る。
5. 政府は**原子力発電**の計画に着手したので、将来的には安定電力として期待される。

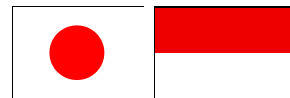
私の見解

1. これまでは**電力供給が電力需要を少し上回る**状態で推移して来たが、これからもその状況は維持されると推測される。
2. 最近では石油に代わり、**石炭が主な発電燃料**として利用されており、石炭の埋蔵量は十分に存在する。
3. 地熱発電は日本の協力で研究が進められているが、全体に占める**割合はまだ5%前後**でしかない。
4. 太陽光発電も話題には取り上げられているが、全体に占める**割合はまだ0.005%前後**でしかない。
5. 化石燃料が豊富なインドネシアにおいて、**敢えてリスクの高い原子力**に挑戦することは考えにくい。





16.部材現地調達に対する誤解



良くある誤解

1. 基幹産業になっている、**自動車の部材**は、ほぼ全てが現地調達化されている。
2. 金属部材の原材料の多くは**海外から輸入**されている。
3. 樹脂製品の多くは、**リサイクルされた原材料**を利用している。
4. 木材の部材の多くは、豊富な森林資源を背景に、**ムク材**が贅沢に使われている。
5. 政府プロジェクトに使用される部材は、基本的にインドネシア**国内製が優先**される。

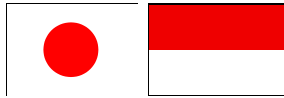
私の見解

1. インドネシアにおける自動車の現地化率は概ね**60%前後**と言われている。
2. 一度輸入された金属材料は、廃材になった後に、**何度も再生されて**使われる。
3. リサイクルをアピールしている商品もあるが、**リサイクルには数倍のコスト**を要するため、殆どは建前に過ぎない。
4. ムク材は歩留まりが低いため、**合板、ボード、成型板**にしてから利用されるケースが多い。
5. 表に出ない輸入会社から購入し、**現地調達とする方便**は以前から使われている。





17.産業インフラに対する誤解



良くある誤解

1. インドネシア政府が、**産業をどのように分類**しているのか、不明確である。
2. 椰子油農園などの大企業の傘下にある農業は機械化が進んでいるが、個人ベースの稲作等は**昔ながらの人力作業**に頼っている。
3. 海洋国家で水産資源の豊富なインドネシアは、**近代的な大型漁船**で魚を獲っている。
4. サプライヤならびに、販売ルートの**取引先を開拓**するための、情報入手が難しい。
5. 生鮮食品の配送に対応した、**コールドチェーン**のサービス未発達である。

私の見解

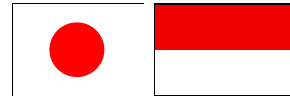
1. インドネシア政府は**インドネシア事業分野標準分類**(KBLI: Kalsifikasi Baku Lapangan Usaha Indonesia)を制定し、これを基に産業分野を統制している。
2. 一時JICAによる稲作の機械化支援も行われ、日本の農業機械メーカーも進出しているが、**まだにほとんどの作業は人力**が主体である。
3. インドネシアの漁業海域は遠浅が多いため、多くは**100トン以下の木造船**で操業している。
4. ジャカルタやスラバヤのいくつかの展示会場で、多くの業種の**産業展示会**が開催されており、そこで取引先を開拓することが可能である。
5. コールドチェーン対応の倉庫は増えつつあるが、**冷蔵・冷凍機能を備えたトラック**の数が足りない。

参考資料 [まるわかりKBLI](#)
[インドネシアの産業展示会で顧客を開拓するコツ](#)





18.環境規制に対する誤解



良くある誤解

1. 都市部の大気汚染や、河川の汚染状態を見ると、インドネシアでは**環境規制**が効力を持っていない。
2. **工業団地**は環境規制に対応しているので、そこに入居すれば、安心して操業することが出来る。
3. 日本の環境規制は非常に厳しいので、**日本の規制レベル**をクリアしていれば、インドネシアでは問題にならない。
4. 環境問題を煩く言われなかったために、**人里離れた奥地**に工場を建てる方が良い。
5. 同じ敷地内に工場を増築して、同じ産業分類の**事業を拡大**する場合は、環境規制の許認可を申請取得する必要は無い。

私の見解

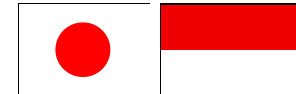
1. 排水、排気、廃棄物に対する法律は定められており、特に**排水に対する規制**は日本よりも厳しい地域もある。
2. 工業団地により、**環境対策のレベル**が異なるため、全てお任せに出来るケースは少ない。
3. 対象物、地域により細かい数値が定められており、必ずしも**日本と合致する訳ではない**ので、現地の法律を確認することが必須である。
4. どこに工場を建設するかとは関係なく、**環境評価に基づく審査**が通らないと、会社設立と事業許可は実現出来ない。
5. 増資に基づく事業拡大の場合でも、新規投資の場合と同様に、**環境評価に基づく審査**が通らないと、事業許可は下りない。

参考資料 [インドネシア工場の環境対策](#)





19.税金制度に対する誤解



良くある誤解

1. 国税庁との間で、税務処理に対する解釈の違いがあった場合は、**交渉により解決**出来る。
2. 輸出が増えたことによる、**付加価値税の過払い分**は、ほぼ全額還付されるので、心配することはない。
3. 赤字になったことによる、**前払法人所得税の過払い分**は、ほぼ全額還付されるので、心配することはない。
4. 日本本社向けの輸出価格を抑えて、**現地法人の利益を最小限**にし、本社の利益を確保することで、投資回収を早める。
5. インドネシアの所得税は高いので、**日本人の現地給与を少なく**して、日本側での給与を増やす。

私の見解

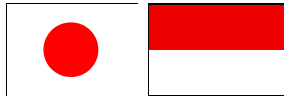
1. インドネシアの国税庁は、特に法律に従順な日本企業に対しては、**一方的に課税**して来る可能性が高い。
2. 付加価値税の過払い分は還付されるにしても、**一年以上の時間を要する**ことが多いので、資金繰りの問題が生じる。
3. 会計上は赤字決算になっても、税務上は国税庁の**一方的な理屈**で**黒字決算**となり、課税される可能性が高い。
4. 利益操作を目的とした**移転価格の疑い**をもたれると、罰則などで多大な損失を蒙ることになる。
5. 国税庁は外国人の所得についての、世界的なデータベースを持っており、**現地給与が極端に少ない**場合は、**グローバル所得**を適用して来る。

参考資料 [わるわかりインドネシアの税制](#)





20.外資規制に対する誤解



良くある誤解

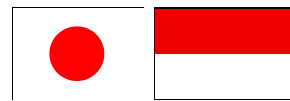
1. 経済成長を外国からの投資に依存しているインドネシアは、基本的に**外資導入に積極的**である。
2. インドネシアは地元の資本や産業を保護する傾向が強く、**100%外国資本**で参入出来る分野は限られている。
3. 外国人労働者としての駐在員は、定められた期間内に、インドネシア人にその**職務を移行**しなくてはならない。
4. 外国資本企業は、**一企業一産業分野**に事業内容が制限される。
5. 業種や企業規模に関係なく、事業を始めるためには、**最低100億ルピア(1億円)**を資本金として払い込むことが条件となる。

私の見解

1. 2021年度のGDPに占める固定資産形成の割合は約30%であるが、その中で外国資本が占めるのは1/10に過ぎないことから、**外資に求めるのは資本金そのものよりも、技術**であると推測される。
2. 2020年末に発効した雇用創出法案では、基本的に外資参入の規制は、**特定の業種を除き撤廃**された。
3. 外国人労働者が就労ビザを更新出来るのは、5年を目途とすべきであるが、**取締役およびコミサリス**は、株主総会の決議事項なので対象外となる。
4. 投資法による最低投資額**100億ルピア単位**で、一企業一産業分野が適用される。
5. 実際は法人設立に必要な払込資本額は、最低授權資本額100億ルピアの1/4なので、**25億ルピアの当初払込資本金**で事業基本番号NIBが取得出来て、投資申請および事業許可へと進める。

参考資料 [改善されたインドネシアの投資環境](#)





インドネシア進出サポート公式サイト

インドネシア進出準備から撤退までの要点を簡潔にまとめたサイトです
(Googleトップランキング)

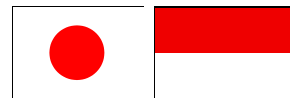
インドネシア最新情報ブログ

あらゆる分野での情報を毎日、どんなメディアよりも早く紹介しています

インドネシア進出サポートウェブセミナー

公式サイトに掲載されたセミナースライドサンプルの中から、ダウンロード件数の多いもの順に音声解説付きのスライドをアップロードしています

**愛する二つの祖国である、日本とインドネシアの発展のため、
全てのコンテンツは無料で開示されています**



ご清聴ありがとうございました
ここからは質疑応答です